

人と本の交流空間

「私設図書館つむぎ」



地域のお宝情報誌
Vol.20
2023年7月発行

八田の伊豆地区、県道から梨畑を北に入ると、黄色と紫色ののぼり旗が立っているお家が見えてきます。ここが館長の河本真由美さんが運営する「私設図書館つむぎ」です。世代を問わずに交流できる場所が地元があれば…という強い思いから、令和4年4月に本を通じた交流スペースを立ち上げました。

敷地内に新設された図書館には小説を中心とし、絵本から漫画まで約2000冊の本がずらりと並び読み手を待っています。

母屋の和室スペースも開放されており、自分の時間を

過ごしながらも、他人と同じ空間を共有する心地よい雰囲気広がっています。

これまでに、散歩の途中に訪れて、館長とのお話を楽しみにされているご高齢の方、夏休みに連日勉強をする大学生が、ここでそれぞれの時間を過ごしたそうです。

そして、まさにこの取材中にも、母親と一緒に訪れた小学生の女の子が、元気いっぱいに「宿題やりにきたよー!」と和室スペースへ駆け込んできました。お話を聞いてみると、家で宿題をするよりもはかどるそうです。

そのほかにも、教室や会議

などでスペースが必要な時は、部屋の貸し出しも可能との事(有料)。

これからも地域にとって憩いの場となれるよう「私設図書館つむぎ」では、利用される方を大歓迎しています。また図書館の見守りボランティアもあわせて大募集しています。

是非、一緒に地域の居場所づくりをしてみませんか。



黄色と紫色の旗が開館の目印です



オーナー付きの本棚は、特色豊かな書籍を楽しめます。



開放感のある和室スペースは静かであり賑やかでもあり…



「みなさんの応援の声が何よりの励みになります」と館長の河本さん。

地域の絆と名作映画は色褪せず「八田長寿会」



地域のお宝情報誌
Vol.20
2023年7月発行

今回は八田地区で、体操などの自主活動をしている長寿会にお邪魔させていただきました。

長寿会は八田コミュニティセンターで週3回、体操を実施しており、いつも10～20人の地区の方が和気あいあいと参加しています。コロナ禍以前は体操以外にペタンク(目標にボールを投げ合って相手より近づける球技)も行っていました。

昨年から開催している映画上映会は、今回で4回目。何の映画にするかを決めるのは担当制だそうです。今月の副会長の陸野さんがチョイスした「ハドソン川の奇跡」は、実話を元にしており、飛行機事故から決死の生還劇、事故の真相を追う傑作でした。皆さん大型スクリーンやスピーカーで、迫力のある映像と音響を満喫されていました。

長寿会で映画上映を始めた理由は“地区で準備したスクリーンを、もっと住民の皆が集まることに活用したい”と考

えたからだそうです。

機材などの準備に奔走された方の一人で、現在は八田地区連合会会長の山本さんは「地区の皆が集まってワイワイできるきっかけをつくりたかった」と話してくれました。一時期、使っていたという大きなスクリーンは何と手作りとの事。

長寿会会長の産田さんも「まず自分が楽しそうと思ったことをやらなくちゃ!」と笑顔で語ってくれました。

皆が集まって楽しんでもらうには、いつだって先槍(さきやり)さん達の熱い想いと遊び心が大切なのだと痛感しました。

生活支援コーディネーターは先槍さんの「やりたい!」活動のお手伝いをさせていただいております。ご不明な点がありましたら、どうぞお気軽に声をかけてください。

すこやかセンター伊野内
いの町ほけん福祉課
地域包括支援センター
生活支援コーディネーター 植田
☎ 088-893-0231



上映の日でもいつもの体操は欠かしません。皆さんキビキビと運動されています。



センター内で存在感をみせる、お手製の特大スクリーン!



左から産田耕三さん、産田孝会長、山本さん、陸野さん。準備に後片付けに大忙しでした。次回の映画はラブロマンスを予定しているとの事です。

